enkara

# ▼緊急時にペットがいることを伝える複層ステッカー

# 常に持ち歩く〝スマホ〟へ貼付

合同会社enkara（東京都板橋区南常盤台、井手香織代表）はこのほど、自宅にペットが居ることを伝える2層式の「ペットがお家にいますステッカー」を開発した。同商品は飼い主に緊急事態が生じ帰宅が困難な際、救急隊員や救護者へ緊急連絡先を知らせるもの。スマートフォンに貼ったステッカーの1層目を剥がせば、2層目にあらかじめ記入しておいたペットのレスキュー先が表れる仕組みだ。そんなステッカーの特徴や開発の経緯などをリポートする。（柏木◇◇◇

合同会社enkaraは、犬と人のよりよい未来の実現を目的として昨年9月に設立した会社。主にウェブ媒体を手がけ、これまでドッグトレーナーやペット管理栄養士ら有識者から得る情報のほか、元保護犬と暮らす家族の物語なども発信してきた。

加えてドッグヨガやしつけのトレーニングをオンライン上で体験できる〝KOTO〟と、フードや雑貨など〝MONO〟を扱う「enkaraMarket」を運営している。

さらに、子どもが着られなくなった古着を回収し、保護犬の洋服にリデザインをして届けるほか、サウジアラビアの野犬を保護してスコットランドへ移す費用の支援などプロジェクトを展開。今年4月1日から28日までの期間には、クラウドファンディングを活用し世界各地で猛威を振るう新型コロナウイルス感染拡大を引き合いに出す同社の代表を務める井手氏。「海外では感染者が隔離され、ペットが家に長期間置き去りになるケースもあった」と話す。続けて「飼い主が緊急連絡先を常時携帯し救助者へペットが家にいることを一目で気づいてもらいたかった」と付け加える。

井手香織代表

「ペットがお家にいますステッカー」を普及させる新規プロジェクトを立ち上げ支援者を募った。

同ステッカーは、両面印刷された1層目を剥がすと2層目に緊急連絡先が記せる積層タイプ。ペットが家にいることを示すイラストが描かれた表面は、容易に剥がしやすいよう、右下を斜めに欠けさせたという。また、欠けた部分から2層目の電話マークが見え、救助者などが〝どこかに連絡する必要がある〟と一目で分かるデザインが特徴だ。

1層目の裏面には、ステッカーの専用ページがひも付けられたQRコードを印字。アクセスすると日本語や英語のほか、中・伊・仏語など8か国語表記で緊急連絡先へつながるよう、次のステップを促す仕組みになっている。

そして緊急連絡先の記入欄を設けた2層目は、特殊な加工を施すことで、1層目を貼り剥がしても記入した連絡先が消えにくい構造を追及したという。

1層目の裏面には専用ページがひも付けられたQRコードを印字。2層目の緊急連絡先が消えにくい加工を施している

井手氏はステッカーの基材や製造方法について「ラベル印刷会社の協力を得、サンプル製作を重ねてもらうほか、複雑な工程をよりシンプルにする提案によって製品化できた」と述べる。

ステッカーのサイズは約4×5㌢。これは〝キャッシュレス化〟に伴い、人々が常に持ち歩くとされるスマートフォンへ貼ってもらう狙いだ。井手氏は「ステッカーを採用した理由は、カード型だと財布に収納され、緊急時にそのサインが伝わりづらいため」と説明する。

今後の展望については「ステッカーの意味を認識してもらうことが大事。多くの人に周知してもらうため、企業や行政からも協力を得られれば。また、本来は役目を果たされないことが望ましい一方、あらゆる事象に備えサイズの拡大やより耐久性を高めたステッカーも準備したい」（井手氏）と方向性を示した。

詳細は同社HP（https://www.enkara.jp/）まで。